



# 自分のまちが好きになる アニメーターと行く、 御豊瀬でロケハン！【4】

## ◆ 授業がスタート

朝晩の冷え込みで校庭の落ち葉が気になる季節、第4回目の授業が始まりました。

吉富先生はお仕事の都合でリモート参加です。

まずは、前回の途中だった作品を仕上げる時間です。

「見つけた事（緑付箋）」「感じた事（オレンジ付箋）」  
「イメージした事（青付箋）」、付箋の色を分けて情報を整理することで、自分の気持ちと向き合うこともでき、人にも伝えやすくなりますね。1回目よりたくさんの情報を作品に落とし込むことができたのではないのでしょうか。

1回目と2回目のロケハンで、自分の中で感じた事がどのように変わったかを意識しながら仕上げていきます。



## ◆ 完成した2回目の作品を発表

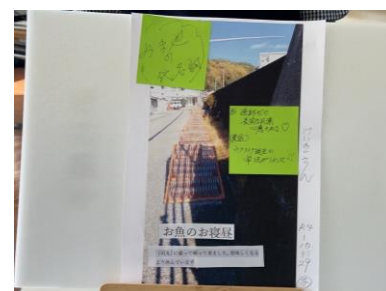
作品が完成したら、前回同様、受講生が順番に自分の作品を発表していきました。

沖ウルメを干している風景を「お魚のお昼寝」に例えた、のどかな写真の中に、同じ地球ではウクライナの戦争があるという真逆の状況を想像する受講生。

何気ない御豊瀬の猫とのふれ合いを切り取った一枚で、猫側も癒されているのでは？と癒し癒される関係性を表現する受講生。

廃線になったバス停で主人の帰りを待っているような猫を見て「自分の待つものとは何だろう？」と想像を膨らませる受講生。

ただ見えるものだけでなく、その先に感じるものがどんどん広がっていることが伝わってきます。この教室を通して、皆さんの地域の魅力を見つける目は確実に成長していますね。



### ◆ ドキドキ・ワクワク最後の仕上げ！

ロケハン教室では、最終回の成果発表に向けて、作品をパネルにして展示することとフォトブックにすることを目標としています。

展示する作品は1点のみ。これまでに作った2作品のうち1点を選び、ブラッシュアップと清書をして仕上げていきます。

作品を作るうえで大切なのは、「他者が見て分かる」形にすること。何を感じたのか、前回との違いを意識しながら書き込みをしていきます。

もちろん見栄えも大切！付箋をかわいくハサミで切り取ってデザインをしたり、飾り文字や絵を書き込む受講生も。

受講生たちは、自分の成長を感じながらとても楽しそうに作業を進めているように見えました。



### ◆ 自分の気持ちや発見が伝わるように…

吉富先生から、作品作りのアドバイスとして、「授業を通して好きになったコトや場所が増え、結果的に御畳瀬がもっと好きになってきたと思います。作品を見た人にも御畳瀬を好きになってもらいたいのので皆さんが発見した、地域を好きになるための『地域の観察のしかた』について解説してほしい。」というお話がありました。

見つけたモノや感じたコトなど、受講生が作品に書き込む情報量は目に見えて増えてきました。その気持ちや見つけた御畳瀬の魅力などを、作品を通してしっかり伝えていきたいですね。

### ◆ 次回予告

次回の授業では、大きなパネルに地図と作品を貼りつけて展示作品を作ります。また、フォトブックの表紙に入れるタイトルを考えます。宿題はタイトル案を考えてくること。

作品がどんどん形になっていくのが楽しみです。

